

事例B：聞く・話す力が弱い高学年の児童

♥計画

指導仮説	授業における個に応じた手だて
<p>A：不注意や場面理解に弱さあるので、分かりやすい課題・目標設定をしていく必要がある。</p> <p>B：聞く・話す事に弱さがあるので、言語のやりとりのなかで、相手を受け止めて会話できるように支援していく必要がある。</p> <p>C：社会性の弱さがあり集団での取組が苦手なので小集団での取組が必要である。</p>	<p>A：視線を合わせたり、声かけをしたりして集中を促す。</p> <p>A・B：活動の順序や本児の順番を言葉と一緒に視覚的支援（カード）で提示する。</p> <p>B：少人数での相談活動では、話す・聞く場面で個別の支援をしていく。</p> <p>C：グループ練習を取り入れる。</p>

◆実施（指導案）

- ・単元 打楽器や体でアンサンブル
- ・本時の目標
 - ・グループで作ったアンサンブルの中間発表を行い、アドバイスをし合う。（音楽的な感受や表現の技能・鑑賞の能力）
 - ・美しい音色でリコーダーの演奏や、響きのある声で合唱ができる。（表現の技能）

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点 (個に応じた手だて)	教材・教具等	評価 評価方法
導入	課題提示	一斉	1. 本児のめあてを確認する。	・視覚的に提示をする。 順番が意識できるよう、支援する。 友だちと一緒に活動を楽しめるよう、動作化を入れたりペアの工夫をする。	フラッシュカード 歌詞カード オルガン CD	友だちといっしょに活動を楽しもうとしている。(関心・意欲・態度) 観察
	合唱・リズム	一斉	2. リラックスするための合唱やリズム遊びをする。			
展開	リコーダーの演奏	一斉	3. リコーダーの練習をする。	・美しい音色を出すようタンギングの仕方を意識させる。 カードを示して自分の演奏順が分かるようにする。 視線を合わす事によって、集中を促す。 グループ活動に入りやすいように活動の順序を視覚的に示す。 リズムの打ち方がわかりにくい時は、グループをまわったときに一緒に叩いて見本を示す。 ・全部のグループの発表ができない時は、発表グループのよいところと、もう少し工夫したらよいところを自分の班にも生かせるようにまとめる。 ・パートの音色を意識しながら伸びやかに歌えるよう支援する。 視線を合わすことによって集中を促す。	カード 学習プリント CD	美しい音色になるよう工夫しながらリコーダーの演奏をしている。(表現の技能) 観察 グループで協力してリズムアンサンブルの練習をしようとしている。(関心・意欲・態度)(学習プリント) 強弱を意識した発表をしようとしている。(音楽的な感受や表現の工夫) 観察 他のグループの発表を聴いて、アドバイスをしたり、自分たちの参考にしようとしている。(鑑賞の能力) 観察 響きのある声で合唱をしようとしている。(表現の技能) 観察
	アンサンブルの練習	グループ	4. グループでのアンサンブルの練習をする。			
	発表・鑑賞	一斉	5. グループの発表を聞いてアドバイスをし合う			
	合唱	一斉	6. 合唱をする。			
まとめ	まとめ	一斉	7. 学習のまとめと次時の予告をする。			

◆評価

<p>A：視線や声かけ、視覚的支援を受けて、見通しを持って課題に取り組み、集中が途切れることが少なかった。</p> <p>B：少人数の話し合い活動において、議題にあった内容で自分の考えを話すことができた。</p> <p>C：グループでの練習は友だちからの助言を受けて練習に熱心に取り組めた。(友だち同士の教え合いができた。)</p>
--